①取組基本方針

公園の特色を活かす

・羽曳野丘陵の自然を活かした里山の魅力を体 験できる公園

民間活力の導入

- ・多様な主体と連携し河内の里やパークセンター を活用し利用者に里山の自然を楽しむプログラ ムを提供する公園
- ・四季折々の季節を感じる里山の自然とともに遊 戯施設などあらゆる年代の利用者に楽しんでも らえる公園

安全·安心·快適

- ・広域避難場所として、周辺地域の避難者を地 震発生時の市街地火災等から守る公園
- ・後方支援活動拠点として、自衛隊や消防隊・ 警察の支援部隊の救出・救助活動拠点等の 役割を果たす公園

都市の環境を保全

- ・南河内の里山での環境学習や生き物の観察 会など豊かな自然を体感できる公園
- ・里山の自然を府民と共に守り育て里山文化を 次世代に伝える公園

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン

○駐車場からパークセンターなどの施設を通じて公園へ導く、主動線と なるゾーン

自然ゾーン (体験)

○南河内の農村風景を表現した河内の里や、やんちゃの里の児童遊 戯場など利用者が最も多い錦織公園の顔となるゾーン

レクリエーションゾーン

○水辺の里の児童遊戯場や北広場があり、家族でのんびり楽しめる ゾーン

自然ゾーン

○里山として管理されているコナラの二次林の中で散策を楽しむゾーン

<参考>公園の概要

・概要:富田林市に位置し「なつかしの里山風景を再現し維持する」 という計画ビジョンをもとに、羽曳野丘陵の面影を残している 起伏に富んだ地形、コナラ、アカマツを主体とした樹林地、大 小の溜池等の自然地形を積極的に保全し活用を図り、豊か な緑の中で自然とのふれあいの場として整備された。 都市のスプロール化を想定し、計画的に郊外に配置した結 果、現在は周辺を住宅地に囲まれた貴重なみどりとなってい

- ·開設面積:65.7 ha
- ·年間利用者数(令和5年度):約82万人
- ·開設年度:昭和62年4月1日
- ・主要施設:河内の里、児童遊戯場、梅の里、展望台、水辺の広

場、桜木の里、つつじの丘、パークセンター

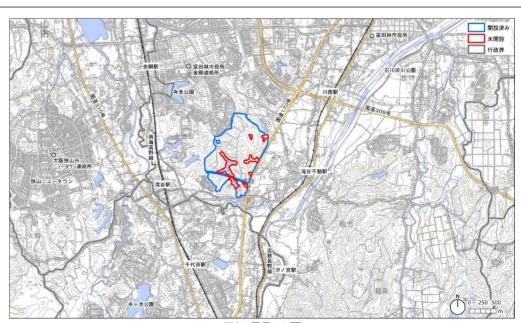
④取組の主な方針

運営管理の方針

- 南河内の昔の風景を再現した河内の里での農作業体験、地域の 伝統文化に着目したイベント等、里山景観を活かした魅力向上。
- •丘陵地(里山公園)の起伏に富んだ地形を活用し、山林の緑豊 かな景観を演出。
- 里山の景観を維持するため、府民参加のボランティアの方々と協力し て、竹や高木の伐採作業を実施し、豊かな森を育成。

維持管理の方針

- 極相林(クライマックス)に移行しないよう、間伐等による密度管理 等を計画的に行い、里山としての二次林を保つ質の高い植栽管理。
- 河内の里の伝統的な里山景観を創出する山野草の牛育環境を整 備し、里山と共存していた時代の河内らしい生活・風景を再現。
- 里山の二次林の林床に牛息するツツジ類を、里山景観を代表する 植物として管理。



周辺見取り図

出典:国土地理院基盤地図情報25000「大阪府」、地理院タイル・淡色地図

国土交通省国土数値情報 を加工して作成